

# 令和7年度 第4回 学校運営協議会 議事録

## 1 開会・校長あいさつ

- (1) **近況報告** インフルエンザ等による学級閉鎖が近隣校で相次いでいるが、本校は何とか持ちこたえている状況。年度末の多忙期に加え、教職員の負担も大きい時期である。
- (2) **ICT・AIの導入** 次年度より「個別の指導計画」作成に生成AIを導入予定。校務(旅費精算等)のデジタル化も進んでおり、移行期の混乱を乗り越えつつ効率化を図っている。

## 2 校内参観

## 3 令和7年度学校経営の報告・評価

### (1) 学校自己評価の概況

- ア **安全安心** 避難訓練等の実施により意識は高いが、改善すべき課題もある。
- イ **専門性** 若手へのフォローや、自分自身で研究・修養に努める姿勢の強化が課題。
- ウ **地域連携** 外部評価は概ね高いが、「挨拶」の習慣化など、社会生活に向けた指導を継続する。
- エ **来校者アンケート** 視覚的支援や環境整備への評価が高い一方、児童生徒の自発的な挨拶について課題がある。教師が手本となって、一緒に行いできる環境を作っていく。
- オ **保護者アンケート** 全体としては高い評価結果。今年度の実績を次年度につなげ、引き続き安全教育や食育、地域との関わりを深めていく。

## 4 学校経営・評価に関する意見交換

### (1) 安全安心

- ア 小学部では「大人と一緒に行動する」ことから始め、段階的に自分の身を守る指導を行っている。(学校)
- イ 地域住民からは「避難所としての学校施設の具体的な把握」が要望されており、訓練を通じた連携を深めていきたいとの要望あり。(運営協議会委員)
- ウ 安全について、何を持って「安全」とするのか、定義の再確認、共有が必要。(運営協議会委員)

### (2) 専門性

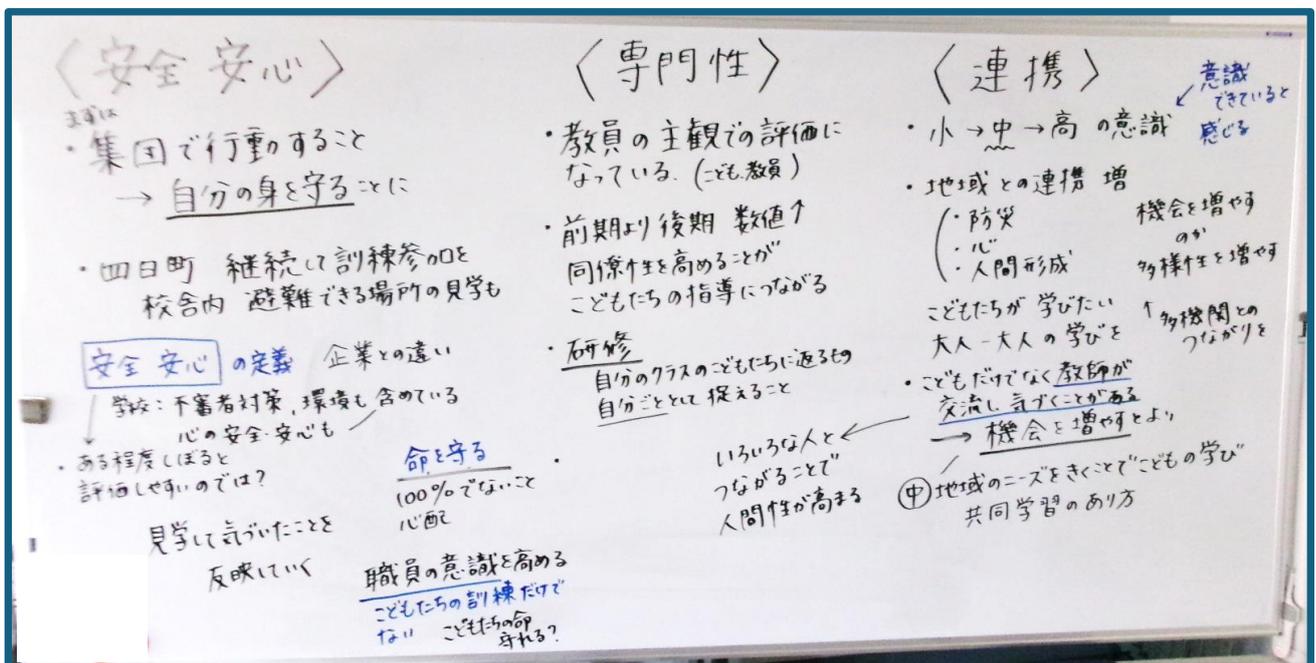
- ア 研修を「自分ごと」として捉え、目の前のこどもにどう還元するかという意識改革が必要。(運営協議会委員)

### (3) 連携(縦と横のつながり)

- ア 縦のつながり 小・中・高 12 年間の学びのつながりを意識した学習計画を作成し実践している。(学校)
- イ 参観して、その取り組みの様子や丁寧な指導の様子が良く分かった。(運営協議会委員)

### (4) 横のつながり(地域共同)

- ア 伊豆の国市の「パン祭り」用オブジェを交流校と共同制作した。(学校)
- イ 地域企業への作品展示や、地元企業開発の AI ロボットを活用した学習など、多様な外部とのつながりを取り入れている。(学校)
- ウ 単なる「交流」に留まらず、共に活動する「共同活動」の大切さを教員も学んだ。(学校)



## 5 共生共育の推進報告

- (1) 地域・センター的機能 地域交流件数は 1 月末時点で 94 件の取り組みを実施。
- (2) 教員間交流 近隣の小学校・中学校への授業参観を実施したり、本校の授業研究に参加していただいたりと互いに学び合う機会が取れた。

## 6 令和 8 年度 学校経営計画(案)の説明

### (1) 学校運営の重点事項と方向性

- ア 計画の具体化 今年度の実績に基づき、具体的な目標数値を盛り込んだ計画を作成。
- イ 重点項目 「安全・安心」「専門性」「連携・チーム学校」の 3 点を軸とする。

ウ 業務の「見える化」 各学部や各分掌において、会議の進め方や時間配分を具体化し、教職員の働き方やマネジメントの改善を図る。

## (2) 教育環境の変化への対応

ア 生成 AI の活用 導入による教育の変化を見据えつつ、基盤として「目の前の子供たちの変化を逃さず正しく評価すること」を最優先する。

イ 家庭・外部機関との連携強化 支援が必要な家庭への対応として、福祉や関係機関との連携を強化する。

ウ 将来の就労支援 企業の在り方の変化を見据え、外部講師等の知見を取り入れながら、従来の枠にとらわれない指導の形を模索する。

## (3) 組織運営の課題 コミュニケーション

・ 世代間のギャップ ベテランと若手が混在する中で、価値観の違いを認識しつつ、いかに同じ方向を向いて協調できるかが課題。

## (4) 学校運営協議会の運営について

ア 委員の交代: 今年度で任期満了となる委員への謝辞とともに、次年度も継続する委員へ協力要請。

イ 周知の拡大: 委員を適宜交代していくことで、学校への理解者を地域や企業の中に増やしていく。

## 7 事務連絡・閉会

### (1) 行事予定

- ・ 高等部卒業式 3月11日(水)午前 10:00~
- ・ 小中学部卒業式 3月18日(水)午前 9:30~